

救急医学		講義	教授 千明 政好
科目カテゴリー	救急救命士コースの専門分野	科目ナンバリング	13341301

1. 授業のねらい・概要

救急医学分野のうち、特定行為を必要とする救急救命処置についての法律・倫理的・メディカルコントロール・医学的観点に鑑み、心肺蘇生の必要性や救急救命処置の医学的効果について論じる。また、拡大を続ける救急救命士の特定行為についてその変遷・歴史的な背景を、ウツタイン統計様式などを用いて論ずる。

2. 授業の進め方

参加型授業を提案し、双方向的な授業を実現できるようにする。理解を深めるよう画像・動画も使用した説明を行うとともに、学生自ら習得した知識を活用したアクティブラーニングによる授業展開を行う。

3. 授業計画

1. 救急救命士の行う救急救命処置の内容・特定行為について理解する。 2. 心原性心肺停止の病態と非心原性心肺停止の病態について理解する。 3. 心肺停止の病態と救命の連鎖について理解する。 4. 救急救命士における心肺蘇生と病態について理解する。 5. 救急救命士におけるインフォームドコンセントについてディスカッションを行い、理解・実践する。 6. 救急救命士における気管挿管の実際と効果について理解する。 7. 救急救命士における静脈路確保の実際と効果について理解する。	8. 第1回から7回までの講義のまとめと筆記試験 9. 薬剤投与の適応と効果について理解し、実技につなげる。 10. 救急救命処置におけるメディカルコントロールについて理解する。 11. 意識障害の病態と治療について理解する。 12. 各種ショックの病態と治療について理解する。 13. 救急医療における終末期医療について理解する。 14. 今後の救急救命処置と院内で使用する薬剤について理解する。 15. 第8回から14回までの救急医学1のまとめを行う
--	--

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- 1) 予習（必要時間：約 50 分）
 - a) 教員はオンライン教材(Google Classroom)を使用し、下記のイ) -ロ) に示す 2 項目を学生に提示する。
 - イ) 学習概要
 - ロ) 小テスト
 - b) 学習概要から出題した課題を提出・授業の冒頭 10 分間で小テストを実施する。
- 2) 復習（必要時間：40 分）
 - a) 授業内容整理

授業で配布したハンドアウト資料を整理させ、次回の授業に提出する。
 - b) 授業内容の再確認

小テストの誤った項目はレポートにまとめ、翌週提出する。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- 1) 筆記試験
 - a) 採点した試験問題および解答をデータで配布(Google Classroom)する。
 - b) 解説は、不正解問題を中心に行う。
- 2) 課題
 - a) 教員は学生が提出した課題に評価とコメントによりフィードバックをする。
 - b) 課題コメントで重要な部分は、次の授業始めにその内容を口頭で説明する。

6. 授業における学修の到達目標

救急医学分野のうち、病院前救急医学で、救急救命士が行うもっとも重要な重度傷病者に対する特定行為、心肺蘇生に関する病態・処置・法的・倫理的問題について完全に理解することを目的とする

到達目標

- 1) 救急救命士として変化し続ける救急救命処置と特定行為の病態を理解
- 2) 救急救命士処置の法的な背景、特定行為の要件の理解
- 3) 特定行為とメディカルコントロールの理解
- 4) 処置により病態の改善を予見するなど適切な思考判断を下し得る知力と思考力の獲得を到達目標とする。

7. 成績評価の方法・基準

1) 成績評価基準

成績評価の基準として、処置により病態の改善を予見するなど適切な思考判断を下し得る知力と思考力の獲得ができたかを以下の方法で評価する。

- a) 事前の授業の準備と理解の評価
- b) 授業態度・主体的な授業への取り組みと講義の理解度の評価
- c) 授業後の内容の整理と課題の提出の評価
- d) 講義内容の理解度を試験で検討

2) 成績評価の方法

- a) 授業内容の整理・提出 (20 %)
 - イ) 事前の授業の準備と理解 10%
 - ロ) 授業態度・主体的な授業への取り組み姿勢 10%
- b) 筆記試験 (80 %)
 - イ) 中間・期末試験結果それぞれ合計点数の 60%以上を合格とする。
 - ロ) 再試験は期末の 1 回のみ実施
 - ハ) 受験資格として 3 分の 2 以上の出席かつ、全ての課題が提出されている事

8. テキスト・参考文献

改訂第 10 版救急救命士標準テキスト (へるす出版)

JRC 蘇生ガイドライン 2020 (へるす出版)

適宜指定する教材

9. 受講上の留意事項

医学系授業の基礎となり、医療従事者であれば常に考え、身につけなければならない学習内容である。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当有無

該当する。本授業は、医療機関における臨床の実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。